



先端の次世代地図データベース開発を大データ量・高速処理に優れたワークステーションが支える

NTT 空間情報株式会社

目的

- 次世代の空間情報データベース構築

アプローチ

- 次世代データベース開発に処理能力が高く、信頼性も高いワークステーションワークステーションを導入

システムの効果

- 航空写真などの、一昔前の10倍、100倍にも達するデータの量が多い地図データベースをストレスなく動かし、演算処理

ビジネスへの効果

- 過去、思うように処理が進まなかったり、長時間かけた処理が途中でダウンして苦しい思いをしたこともしばしばあるが、ハードウェアの性能向上はただちに効率化やコストダウンに繋がる

さまざまな分野で活躍する、日本ヒューレット・パッカーの高性能なワークステーション(WS)。インテル®Xeon®プロセッサを搭載し、高い信頼性で、高度化する処理ニーズに確実に応える。ますます大容量、高速処理が求められる空間情報の世界でも、その活躍の舞台は広がっている。



NTT 空間情報株式会社
制作本部システム部
次期システム PT
担当課長
中野浩氏 (右)
同
次期システム PT 主査
鈴木覚氏 (左)

次世代データベース開発にも WS が活躍

さまざまな分野で活用される GIS のなかでも、初期から主要な用途だったのが、道路や各種ライフラインなどインフラストラクチャーの構築・管理。そんなインフラのひとつに、電話網がある。NTT は、すでに電電公社時代の 1970 年代に設備台帳の自動認識技術の研究を開始。85 年には設備管理用の GIS を導入し、2000 年には大規模な投資のもと、全国都市計画図の電子化、電柱・マンホールの位置登録を行っている。

こうした歴史の上に、2011 年、NTT グループの空間情報関連の事業を集約・独立させる形で設立されたのが、NTT 空間情報株式会社である。事業の柱は、高付加価値の GIS 基盤の提供サービスである「GEOSPACE」。建物・住所等の電子地図、航空写真、衛星写真などのコンテンツ販売のほか、これらをクラウド環境を通じて提供する「GEOSPACE CDS」や、3D 地形モデルの構築も行っている。

この NTT 空間情報で、次世代の空間情報データベース構築に携わっているのが、次期システム PT 担当課長の中野浩氏、主査の鈴木覚氏のお二人。日々の業務に、日本ヒューレット・パッカーのワークステーションを駆使しているという。

「現行のデータベースも 7、8 年が経過、その間にハードウェア、ソフトウェアともに格段の進歩を遂げています。そうした進化を織り込み、次のデータベースを作ろうというのが我々の仕事。そのためのテスト環境の構築の核となるのがワークステーションです。特に扱うデータの量が多いのが、地図データベースの特徴。しかもその容量は一昔前の 10 倍、100 倍にも達しています。航空写真などは、それだけでテラ単位になります。そうしたデータをストレスなく動かし、演算処理したい。加えて、一度構築してしまえばそれでいいというわけではなく、毎年のように地図は更新していかなければならない。これは NTT の使命ともいえます」(中野氏)

それだけに、処理能力が高く、信頼性も高いワークステーションの存在は不可欠。その点で、マシンそれ自体が高性能であるだけでなく、サ

ポート体制も充実している日本 HP には満足度が高い、という。

「我々の業務はハードウェアの性能に依存する部分が多い。過去、思うように処理が進まなかったり、長時間かけた処理が途中でダウンして苦しい思いをしたこともしばしばあります。ハードウェアの性能向上はただちに効率化やコストダウンに繋がるだけに、普段から興味を持っています。実はここ最近、日本 HP の新機種を試用しているのですが、これもなかなかいいですね。導入を検討したいと思います」(中野氏)

ちなみに試用している機種は、インテル®Xeon® プロセッサー E5-2600/1600 ファミリー搭載の HP Z420 Workstation。最大 8 コアを、さらに 2 スレッドずつに分割、最大 16 スレッドの並列処理に切り替えて使うことができるのも魅力という。

度な処理を安定して行うことができる。

また、米シリコンバレー発祥の企業でありながら、1999 年 7 月からは東京・昭島工場での生産を開始。きめ細かなカスタマイズと素早い納期、手厚くレスポンスの早いサポート体制の証として「東京生産」を強く打ち出している。

こうした積み重ねによって、HP Workstation は 5 年連続国内シェア No.1 ※ を獲得。(※出典：IDC 's Worldwide Quarterly Workstation Tracker, 2012 Q4)

さらにこの 10 月には、ワークステーション製品群に、新たにノート型モバイルタイプの「Z Book」を加えるとともに、モニターもすべて「Z Display」に一新。ワークステーション統一ブランド「HP Workstation Z シリーズ」として、ラインナップを充実させている。

特にパソコン・ユーザーの場合、OS として Windows XP を使い続けているケースも多いはずだが、XP のサポートは来年 (2014 年) 4 月に終了の予定。セキュリティ上、非常に大きな課題を抱えていることになる。業務で使用する場合、検証期間などを考えると、なるべく早い時期の移行が求められている。

こうした点から考えても、マシン入れ替えの際には、高性能なワークステーションを選択肢の一つとして検討するよいタイミングとなりそうだ。

NTT 空間情報
<http://www.ntt-geospace.co.jp/>

GISNEXT No.45 より引用



©NTTDATA、©NTT 空間情報



NTT 空間情報が提供する「GEOSPACE 電子地図」。グレードに応じ、詳細な住所、目標物も表示。また標高データや建物レーザーデータなども統合した 3D データの提供も行っている

信頼性の高さで評価される日本 HP の WS

「NTT 空間情報に限らず、地図ビジネスの分野においては、提供するデータの大容量化、処理の高速化のニーズは、ますます強まっている。それだけに、特にプロが使う GIS プラットフォームとしては、いかに性能が向上したとはいえパソコンでは力不足。十分な処理速度と信頼性をもって応えることができる存在となれば、ワークステーションをおいてない。

日本 HP のワークステーションは、インテル®Xeon® プロセッサーのような高性能 CPU を最大 2 基装備。高性能グラフィックスボードや GPU に加え、大容量メモリも搭載可能で、高



記事を共有する

